笛吹市探訪『春日居町徳条地区』

今回の『笛吹市探訪』では徳条周辺を紹介します。

徳条は兜山の南麓にあり、地名は新しく開墾した田がある事に由来しているという説もあります。

また、徳条地区の公文書がしまってある帳箪笥（ちょうだんす・注1）が春日居郷土館で保存されています。徳条地区の公文書には『江戸時代の年貢に関する記録』・『太平洋戦争中に岡部村（おかべむら・注2）役場からきた文書』等があります。

それでは、徳条公民館から平等川沿いを歩きながら徳条周辺の歴史・文化を紹介していきます。

徳条公民館の敷地には石幢（せきどう・注3）・石造馬頭観音像（せきぞうばとうかんのんぞう・注4）・石造六地蔵像（注5）等約20基の石造物がまつられています。真中のある石幢は高さが約250cmあります。

徳条公民館の石幢

徳条公民館から平等川を目指して進んでいくと三叉路（さんさろ）に徳条地区の道祖神場があります。道祖神（注6）は直径約40cmの丸い石をご神体にしています。

道祖神場で右に曲がると、石尊（せきそん）神社の参道にぶつかります。石尊神社はかっては三柱大神（みはしらだいじん）と呼ばれ、崇神天皇（すじんてんのう）・天照大神（あまてらすおおみかみ）・阿夫利大神（あふりだいじん）がまつられていました。太平洋戦争後、社殿を修復し石尊神社と名前を変え石尊大権現（せきそんだいごんげん）をまつりました。石尊大権現は水の神で、神奈川県丹波山の阿夫利山等よりご神体を勧請（かんじょう・注7）しました。また、社殿の天井には正方形の花鳥風月等の絵が描かれています。

石尊神社の社殿

石尊神社より平等川に出て、徳条大橋を渡ると天神塚古墳（春日居町鎮目地内・市指定史跡）があります。

天神塚古墳は直径35m、高さ4m程の円墳です。南に開く全長8mの横穴式石室があり、天井石が2枚残っています。6世紀後半に造られ、7世紀初めまで使われていたと思われます。

天神塚古墳周辺には上町田遺跡（かみまちだいせき・春日居町鎮目地内）があります。平成19年に農道改良工事に伴い発掘調査がおこなわれ、竪穴が見つかり弥生時代・平安時代の土器が出土しました。

徳条の平等川周辺では3月頃に桃の花等が咲きます。花見をかねて川沿いを歩きながら、身近な歴史にふれてみたらいかがですか。

注1　帳箪笥
文書等をしまうための箪笥。

注2　岡部村
松本村・山崎村・徳条村・鎮目村・国府村が合併し1875年に岡辺村が誕生。1879年石和村・英村（はなぶさむら）・岡部村で合併し石和町となりました。

注3　石幢
六角形のお堂をイメージして造る石塔。

注4　石造馬頭観音像
馬を供養するために建てられる石造物。

注5　石造六地蔵像
浄土への導きを願うために建てる石造物。六地蔵の六は地獄・畜生・餓鬼（がき）・修羅・人・天の6つの世界を現します。

注6　道祖神
道の分岐点・村境等に建てられます。丸石を神体とする道祖神の例が笛吹市内には多くあります。

注7　勧請
神霊を分かちたものを他の神社に移して鎮祭すること